

実践報告

夫婦のバースプランに対する満足度

兵藤 美幸 細淵 久美 辻 真央

足利赤十字病院

要旨

【目的】 夫婦のバースプランに対する満足度を明らかにする。

【方法】 対象者はA科で出産前にバースプラン用紙に記入し、経膈分娩をした夫婦10組であった。出産後、自作のアンケート用紙を用いてバースプランに対する満足度を調査した。アンケート結果を集計、自由記載はコード、カテゴリー化し内容を分析した。

【結果】 対象者は10名中8名が経産婦であった。立ち会い分娩ができた産婦は6名であった。6名全員がバースプランに沿って立ち会い分娩ができた。バースプランに沿った出産により満足が得られたのは、夫5名、妻7名であった。バースプランについての自由記載では、「満足感のある出産」「父性の役割獲得」「夫婦の連帯感」など5カテゴリーが抽出された。

【結論】 1. バースプランを活用し、妊娠期から夫婦への教育的かかわりや支援を行うことは、満足のいく出産に繋がる。2. 緊急を要する事態などバースプランの優先ができなかった場合には、分娩の振り返りを行い、出産を肯定的に捉えられるようにするための支援を看護師は行う必要がある。3. 出産後の育児に繋がるようにするためには、バースプランの内容を夫婦と医療者を含め検討していく必要がある。

以上より、夫婦のバースプランに対する満足度には、妻・夫と医療者の意識を高め一体感を持って出産に臨む事が影響している。

キーワード：バースプラン、立ち会い分娩、満足度

I. はじめに

近年、夫の立ち会い分娩は増加傾向にある。関根¹⁾は夫立ち合いの出産の意義は妊娠初期から夫婦ともに互いに協力しつづきたるべき出産への不安、苦痛、恐怖などを乗り越えて素晴らしい感動的な出産体験をし、その後の子育てを相携えてやっていくことの基本的始発点にすることであると述べている。このことから妊娠期より、バースプランについて夫婦で相談し、満足感を得た出産体験をする事は今後の子育てに大きな影響を与えられると考えられる。バースプランは、妊産婦が主体的に出産計画を立案し、医療関係者が個別的な分娩ケアを提供するための情報ツールの一つである。夫婦がバースプランを作成する事で、出産・育児に対する具体的なイメージを持つ事ができ、主体的に分娩・産褥期を迎えることができる。また、夫に妊娠期より子どもに対し興味・関心をもってもらう事で父性が芽生え産後の育児の支援体制も整えられるのではないかと考える。当科においても、夫婦が満足できる分娩援助を目的に、バースプランを活用している。当科のバースプラン用紙は、夫、妻と項目を分けていないことから、夫婦で作成したものなのか、妻のみが作成したものなのか曖昧であった。そのため、実際に分娩の際に妻がそのプランを希望しているのか、それとも夫が希望したものなのかがわからなかったため、バースプラン用紙の見直しを行い、夫と妻の項目を作成した。

今回、夫と妻それぞれの項目があるバースプランに沿って、夫が臍の緒を切る、家族写真を撮りたいなどの分娩援助を行ったご夫婦を対象に、バースプランに対する満足度を明らかにすることにより夫と妻それぞれの分娩に対するニーズに沿った援助の方向性を見出し、夫婦の満足のいく分娩に繋がると考えられる。

II. 研究目的

夫婦のバースプランに対する満足度を明らかにする。

III. 研究方法

1. 研究デザイン

松井ら²⁾の先行研究を参考に作成した自記式アンケート用紙(資料1)を用いたバースプランに対する満足度の実態調査研究。

2. 研究対象者と研究期間

A科で妊娠34週前後の妊婦健康診査を受診し、平成30年8月～10月の期間で経膈分娩をした妻10名および夫10名を対象とした。

3. データ収集方法

妊娠34週前後の妊婦健康診査を受診時、助産師から妻へバースプラン用紙(資料2)を配布し、説明した。出産後のオリエンテーション時に、妻・夫にアンケート用紙(資料1)を配布し、説明した。ナースステーションに回収BOXを設置し、留め置き回収した。

4. 分析方法

アンケート結果よりバースプランに対する満足度については、単純集計を行い、アンケートの自由記載については、記載内容をコード化し、意味内容が類似したものをカテゴリー化し分析した。

5. 用語の定義

バースプラン：妊娠時から考えた妊娠・出産に関する希望・要望を含む計画

立ち会い分娩：出産の場に夫や家族が付き添う事

満足できる出産：夫婦ともに達成感・満足を得られた出産

満足度をあげるバースプランの活用：夫婦共に妊娠期から出産まで話し合い、お互いに思いをプランとして作成し、プランに対し満足の得られるような援助を行う事で満足のいく出産に導く事

IV. 倫理的配慮

研究について目的、方法、意義について十分な説明を行い、自由参加であり強要はしない事、

途中で辞退も可能である事、途中で辞退する場合でも診療上不利益を被らない事、個人情報の保護、研究以外では使用しない事を、文書および口頭にて説明し、アンケートの提出（回収箱に投函）をもって同意を得たものとした。アン

ケートは回収箱より回収し、データ分析後速やかに裁断処理し、データの取り扱いについては個人が特定されないように留意した。本研究は研究者が所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施した（承認日2018年8月6日）。

資料1
出産されたママへ
バースプラン活用に関するアンケートご協力をお願い

近年、夫（パートナー）の立ち会い出産が増加傾向にあります。夫婦のバースプランを明確にし、活用する事で、私達助産師、看護師の援助の方向性を見出し、夫婦の満足のいく分娩に繋がるよう役立てたいと考えています。アンケートの協力をお願い致します。

●●病院

出産日 月 日
回答方法：該当する□にチェックをご記入下さい（例、）

1. 何回目の出産ですか。
 初めて 2回目 3回目 4回目 5回目以上

2. 立ち会い出産はできましたか。
 はい いいえ
理由
〔 〕

※以下、質問2に「はい」が付いた方のみお答えください。
3. バースプランの希望に添った方が立ち会えましたか。
 はい いいえ
理由
〔 〕

4. 立ち会いされた家族（子供・夫・パートナー・祖父母等）からバースプランに添った援助は受ける事ができましたか
 はい いいえ
理由
〔 〕

※以下、質問4に「はい」が付いた方のみお答えください。○をつけて下さい。
1)バースプランに添った援助に対して

5. 非常に満足 やや満足 3. 普通 やや不満 1. 不満
(以上はアンケート用紙の一部抜粋)

V. 結果

1. 対象者の背景（表1）

産婦は10名中8名が経産婦であった。立ち会い出産ができた産婦は6名であり、6名全員がバースプランに沿った立ち会い出産が行えていた。また、バースプランに添って行った出産が満足のいくものであったと答えたのは、夫5名、妻7名であった。

2. バースプランに対する満足度（表2）

アンケート用紙の質問項目に従って、結果を述べる。

問2. 立ち会い出産はできたかという質問に対して、妻の立ち会いができた意見として「夫に立ち会ってもらえた」「子どもと立ち会えた」、できない理由として「間に合わなかった」とあった。無記入は4名であった。一方夫の立ち会いができた意見として「仕事が休みだったため」「仕事を休めたため」、できなかった理由として「仕事で立ち会えなかった」とあった。無記入は7名であった。

問3. バースプランの希望に添った方が立ち会えたかという質問に対して、妻の希望通りであったという意見では「一番痛い時に立ち会ってくれた」「上の子と立ち会いができた」「前もって家族と相談しできた」、希望通りではなかったという理由では「緊急で思い通りにいかなかった」「上の子が日中で保育園に行っていたため」とあった。無記入は4名であった。一方、

資料2
バースプラン

ママのお名前 _____ パパのお名前 _____
ママID _____ 出産予定日 年 月 日

★立ち会い出産の希望はありますか？ ママ（はい・いいえ）
パパ（はい・いいえ）

★立ち会われる予定の方はどなたですか？○を付けて下さい。
夫（パートナー） お子様（例：長女5歳）
実母 義母 その他（ ）

★お産についてのどんなイメージをお持ちですか？
ママ _____
パパ _____

★お産の時（陣痛中）はどのように過ごされたいですか？（例 好きな音楽を流したいなど）
ママ _____
パパ _____

★赤ちゃんが産まれたらしたいことはありますか？（例 隣の産を切りたい 写真を撮りたいなど）
ママ _____
パパ _____

★何か不安な事はありますか？授乳や赤ちゃんのお世話の事、ママの体の事なんでもお書き下さい。
ママ _____
パパ _____

表1 対象者の背景

項目	内訳	n:10組(%)	
		組	(%)
妊娠歴	初産婦	2	(20)
	経産婦	8	(80)
立ち会い出産はできたか	できた	6	(60)
	できなかった	4	(40)

表2 バースプランに対する意識・満足度 人(%)

項目	内訳	人数	(%)
プランに添って立ち合いができたか	できた	夫	6 (60)
		妻	6 (60)
	できなかった	夫	0 (0)
		妻	1 (10)
	無記入	夫	4 (40)
		妻	3 (30)
バースプランに添った援助を受ける事はできたか	できた	夫	6 (60)
		妻	7 (70)
	できなかった	夫	0 (0)
		妻	0 (0)
	無記入	夫	4 (40)
		妻	3 (30)
スタッフの援助はバースプランに添ったものか	はい	夫	6 (60)
		妻	7 (70)
	いいえ	夫	1 (10)
		妻	1 (10)
	無記入	夫	3 (30)
		妻	2 (20)
バースプランに添って行った出産は満足のいくものだったか	はい	夫	5 (50)
		妻	7 (70)
	いいえ	夫	1 (10)
		妻	1 (10)
	無記入	夫	4 (40)
		妻	2 (20)
バースプラン用紙を渡された時期は適切であったか	はい	夫	3 (30)
		妻	7 (70)
	いいえ	夫	1 (10)
		妻	1 (10)
	無記入	夫	6 (60)
		妻	2 (20)
バースプランについていつ頃夫婦で話し合いをしたか	7～9か月頃	夫	6 (60)
		妻	7 (70)
	10か月頃	夫	1 (10)
		妻	2 (20)
	無記入	夫	3 (30)
		妻	1 (10)
バースプラン用紙は1枚で良かったか。別々の方が良かったか	1枚でよい	夫	7 (70)
		妻	8 (80)
	別々でよい	夫	3 (30)
		妻	1 (10)
	無記入	夫	0 (0)
		妻	1 (10)
バースプランを記入し提出後、スタッフと内容を確認する機会をもてた方が良かったか	はい	夫	1 (10)
		妻	6 (60)
	いいえ	夫	5 (50)
		妻	3 (30)
	無記入	夫	4 (40)
		妻	1 (10)

夫の希望通りであったという意見では「スタッフに確認してもらい、子どもと立ち会えた」、希望通りではなかったという意見は無かった。無記入は8名であった。

問4. 立ち会いされた家族からバースプランに添った援助は受ける事ができたかという質問に対して、希望通りであったという意見では「隣にいてだけで良かった」「臍の緒を切り、写真が撮れた」「1人目の反省点を話し合っていた」「前もって話し合っていた」、希望通りでは無かったという理由では「緊急で臍の緒が切れなかった」とあった。無記入は5名であった。

一方、夫の援助することができたという意見は「妻が満足そうだから」「自分ではそう思う」「事前に確認していたため」「援助をすることができた」とあった。無記入は7名であった。具体的に満足を得た内容として妻は「一緒に出産に望めた」「写真を撮れた」「家族に励ましてもらった」「声かけやマッサージを受けることができた」、不満足の見解は無く、無記入が6名であった。一方、夫の満足な意見は「妻自身から自分にもわかりやすく説明して貰えた」、不満足の見解としては「痛がっていたため声かけしかなかった」とあり無記入が8名であった。

問5. 助産師・看護師の援助はバースプランに添ったものかという質問に対して、妻の希望通りであったという意見については「丁寧でアドバイスをもらえた」「写真を撮ってくれた」「分娩体位を確認してくれた」「促進剤を使用しないよう考慮してくれた」、希望通りではなかったという理由については「忙しいのか、バースプランをきちんと見て欲しい」「言わないとやってくれない」とあった。無記入は5名であった。一方、夫の希望通りであったという意見は「自分にもわかりやすく説明して貰えた」「腰のさすり方を教えてもらった」、希望通りではなかったという理由は「痛がっていたため声かけしかなかった」とあった。無記入は7名であった。

問6. バースプランに添って行った出産は満足のいくものだったかという質問に対して、妻

の満足の意見では「産婦主体で対応してくれた」とあり、不満足は無く、無記入が9名であった。一方、夫の満足である意見は「スタッフから自分にもわかりやすく説明して貰えた」とあり、不満足の見解としては「痛がっていたため声かけしかなかった」とあった。無記入が8名であった。

問7. バースプラン用紙を渡された時期は適切であったかという質問に対して、妻の適切であったという意見では「週数的に良かった」「産休に入らないと時間の確保ができないため」「落ちついて考えられた」とあり、不適切の見解では「もっと早くて良い」とあった。無記入は5名であった。一方、夫の適切であったという意見では「出産が近づいていることを改めて感じ話し合う機会になったから」とあり、不適切は無く、無記入は8名であった。

問8. バースプランについてご夫婦でいつ頃話し合いをしたかという質問に対して、7～9か月頃が7名、10月頃が2名、無記入が1名であった。一方、夫は7～9か月頃が6名、10か月頃が1名、無記入が3名であった。

問9. バースプラン用紙は妻と夫と別々の用紙があった方が良かったかの質問については、妻の見解として「パパは記入しないから」「パパと希望が違うと困るから」「プランに希望が無い」とあり、別々の用紙で良かったという意見として「パパの所も記入したため別であればパパも記入したかもしれない」とあった。無記入は6名であった。一方、夫の見解としては「二人で一緒に見ればよい」「お互いの考えが改めて分かる」とあった。無記入は8名であった。

問10. バースプラン用紙を記入し提出後、スタッフと内容を確認する機会をもてた方が良かったかの質問に対して、妻のあった方が良いという意見について「陣痛で忘れてしまうので」「いつ読んでいるか分からないから」「確認がなかったので不安だった」「外来か入院時に再度確認して欲しい」とあり、無くて良い理由としては「陣痛があり確認する時間がないため」「目を通してきているので無くて良い」とあ

た。無記入は4名であった。一方、夫の意見として「緊急や時間の制約もあるのできっちりしない方が良い」「きちんと目を通してきているので設けなくても良い」とあった。無記入は8名であった。

問11. 意見や要望等について、妻は「バースプランを適宜確認してほしい」「分娩室にバースプランの用紙を置いて欲しい」「立ち会い希望で家族を呼んだ方が良いと言ってくれた」とあり、無記入は7名であった。一方、夫の記入は無かった。夫の無記入があった事例に関しては、妻より立ち会い分娩は仕事を調整し休むことができたが、産後は仕事のため時間の調整ができずアンケートの記入を行う事ができないと回答があった。

2. 自由記載の回答の分析結果 (表3)

記述内容を、精読し分析した結果、以下の5つのカテゴリーを得た。

「立ち会ってもらえた」「一番痛い時にそばにいてくれた」等のコードから、カテゴリー【満足感のある出産】として集約した。「緊急で思い通りにいかなかった」「緊急で臍の緒が切れなかった」等のコードからカテゴリー【バースプランの実践ができなかった出産】についてとして集約した。「出産が近づいている事を改めて感じ話し合う機会をもてた」等のコードからカテゴリー【父性の役割獲得】についてとして集約した。「夫が側にいるだけで良かった。」「出産が近づいている事を改めて感じ話し合う機会を持てた」等のコードからカテゴリー【夫婦の連帯感】についてとして集約した。「丁寧にアドバイスをもらえた。」「産婦主体で対応してくれた。」等のコードからカテゴリー【スタッフの支援や役割】についてとして集約した。

VI. 考察

1. バースプランに対する満足度

表2より、バースプランに沿った援助が受け

表3 自由記載の分析結果

()は人数を示す

カテゴリー	コード	分娩歴
【満足感のある出産】	立ち会ってもらえた	初産婦 (3) / 経産婦 (3)
	一番痛い時に側にいてくれた	経産婦 (1)
	隣にいただけでよかった	初産婦 (1) / 経産婦 (1)
	臍の緒を切り写真が撮れた	初産婦 (3) / 経産婦 (3)
	声掛けやマッサージを受ける事ができた	経産婦 (1)
	産婦主体で対応してくれた	経産婦 (1)
【バースプランの実践ができなかった出産】	緊急で思い通りにいかなかった	経産婦 (1)
	緊急で臍の緒が切れなかった	経産婦 (1)
【父性の役割獲得】	出産が近づいている事を改めて感じ話し合う機会を持てた	初産婦 (1)
【夫婦の連帯感】	夫が側にいるだけで良かった	初産婦 (1) / 経産婦 (1)
	出産が近づいている事を改めて感じ話し合う機会を持てた	経産婦 (1)
【スタッフの支援や役割】	丁寧にアドバイスをもらえた	初産婦 (2) / 経産婦 (1)
	分娩体位を確認してくれた	経産婦 (1)
	写真を撮ってくれた	初産婦 (1) / 経産婦 (1)
	産婦主体で対応してくれた	経産婦 (1)
	腰のさすり方を教えてくれた	初産婦 (1)

られたと回答した妻と夫それぞれ半数以上であったことや、出産に満足したと回答した妻と夫それぞれ半数以上であったことから、A科でのケアはますます満足度が高いと考えられた。その理由として夫婦の分娩に対するニーズを把握し、実践できた事が満足を得られる結果となった事が考えられる。

2. バースプランに対する自由記載

1) 【満足感のある出産】

「立ち会ってもらえた」「声掛けやマッサージを受ける事ができた」では、バースプランについてスタッフから指導を受け、バースプラン用紙を夫婦で活用し、出産に対する話し合いを持ち、出産時に妻から夫への希望等を夫が知る事ができ、実際に夫より援助を受けられた事で満足感が得られた出産になったと考えられる。

また、夫は、分娩までの関わり方、援助について戸惑ってしまったが、スタッフから援助の方法や声掛けについて教えてもらうことで実践する事ができたと考えられる。三浦³⁾は「分娩前の指導では夫に呼吸法やマッサージ、圧迫法で有意に役立った」とある事から実施しやすい援助方法を指導することにより、分娩時により満足感のある分娩に繋がると述べている。これらの事からも夫への指導を充実させた事で満足感のある出産に繋がったと考えられる。

2) 【バースプランの実践ができなかった出産】

「緊急で思い通りにいかなかった」では、入院後すぐに出産となってしまった為、「臍の緒を切る」「立ち会い」等のバースプランの実践ができず、産婦自身で思い描いていたものが実践できず満足度の低い出産経験になってしまった事が考えられる。バースプランは夫婦の理想や主体性を尊重し文章化したものであるが記入して終わりではない。分娩前にスタッフとバースプランの内容の確認を行い、出産は常に危険（母の大量出血、児の心拍数の低下など）と隣り合わせで、予測のつかないことが起こる可能性があり、母と児の安全を最優先とするためバースプランを実践できない場合もある旨を事前に説明しておく事が重要であると考えられる。

バースプランの変更・修正があった場合には、満足できない出産であったと否定的に捉えてしまう可能性があるため、産後に出産の振り返りを行う事で、肯定的に捉えられるよう支援していく必要がある。

3) 【父性の役割獲得】

「出産が近づいている事を改めて感じ話し合う機会を持てた」では、妊娠期からバースプランを考える事で、具体的な出産での援助等、2人での共同作業を行っていく事で父性が芽生える機会となると考えられる。藤岡ら⁴⁾は1歳児をもつ母親は「夫の育児参加」について約2割が不満足としており、日中の育児を担っているのは約7割が母親であると同時に、約半数が仕事と育児を両立している。夫の主体的な育児参加を希望しており、父親役割を認識させるための支援、および育児協力ではなく父親自らの育児力を高め育児に参加する体制を構築する必要があると述べている。バースプラン以外にも児の抱き方、オムツ交換の方法等を母親学級等で行っていく事で父性を認識していくきっかけ作りが必要であると考えられる。

4) 【夫婦の連帯感】

「夫が側にいるだけで良かった」「出産が近づいている事を改めて感じ話し合う機会をもてた」では、援助も大切であるが隣にいて安心感を得られていた事がわかった。これらの事から、精神的な支えが必要である事を指導していく必要があると考えられる。船越ら⁵⁾は夫の達成感や満足感のある出産の受け止めとなる要因として、妻からの肯定的な反応や出産後の感想、発言や、妻とともに妊娠中に作成したバースプランの達成があると述べている。夫にバースプランについての知識の習得の機会を設け、分娩後の夫婦での振り返りが必要である事が認識できたと考える。

5) 【スタッフの支援や関わり】

「丁寧にアドバイスをもらえた」「産婦主体で対応してくれた」では、スタッフが入院時にバースプランを確認する機会を持つことでプランを意識しているという事が伝わり安心感を得られた事がわかった。声掛けや、援助方法について

助言を行い、妻・夫・スタッフで一体となり出産に臨めた事で満足度の得られた出産に導けたのではないかと考えられる。

自由記載には8名が記入しそのうちの6名が経産婦であった。これらから考えると初産婦より出産経験があるため具体的なバースプランのイメージがしやすくより関心を持っていた事がわかった。初産婦に対しては分娩経過や疼痛緩和に対するケアを具体的に説明しバースプランを立案できるように支援する必要がある。

VII. 結論

バースプランに沿った援助が受けられたと回答し、出産に満足したと回答した妻と夫それぞれ半数以上であったことから、満足度が高いと考えられた。さらに今後、夫婦のバースプランに対する満足度をあげるには、妻・夫と医療者の意識を高め一体感を持って臨む必要がある。夫へは不足していた知識の習得の機会を設けるために夫参加の母親学級に企画を盛り込み、出産への意識を高められるよう支援を行い、夫婦で話し合う時間を設けバースプランを記入してもらう。記入後に医療者を含めバースプランの内容を入院時に確認し、分娩に臨む姿勢を作っていくことでより高い満足度を得られるということが分かった。また、可能な限りバースプランを実践するが、分娩の経過によっては母と児の安全を優先とするため実践できない場合もある事を伝え、バースプラン通りに実践できなかった事例に対してはお産に関わった助産師が入院中に面談をして入院から出産までの経過について妻の思いを聴取し、分娩経過とその理由を説明し、出産体験を肯定的に捉えられるよう支援を行っていく。

これらから、育児力を高めていくには妊娠期から育児に対し興味をもってもらう事が必要である。夫参加の母親学級で、新生児について知識を習得し、抱っこの仕方やおムツ交換の方法を学び実践できようになる事で、育児に対し自信をもち、次なる育児へとステップアップし育児力を高めていく事に繋がると考えられる。妊娠期からの指導は、母のみではなく夫も交えた

教育体制を整える事が重要である。

VIII. 研究の限界と今後の課題

今回の研究では、対象者数が少ないため夫婦の満足度の全容を明らかにできたとは言い難く、妊娠経過、分娩経過などの背景も考慮していく必要がある。今後の課題として、バースプランの満足度をあげるのみではなく、夫の意識を高めていくには夫婦での妊娠期からの関わりを持つ機会を作っていく事が必要であると考えられる。

また、バースプランの満足度をあげるのみではなく、女性の社会進出が進んでいる現代社会に伴い出産後の育児を見据えた支援について、さらに検討していく必要がある。

謝辞

最後に今回の研究にあたり協力して頂いた対象者の皆様、指導して頂いた足利大学 青山先生をはじめ諸先生方、石島係長、病棟看護師長、スタッフの皆様方に御礼申し上げます。なお、本研究の一部は第55回日本赤十字社医学会総会にて発表を行った。

引用文献

- 1) 関根憲治.夫の立ち会い分娩の問題点と対策. 周産期医学. 1993 ; 23 (7) : 1037-1041.
- 2) 松井智子, 丸山美佳, 小原小夜子. 夫婦で取り組むお産と満足感の関連性バースプラン作成からバースレビューを通して. 大津市民病院雑誌. 2009 ; 10 : 46-49.
- 3) 三浦好美, 清水ゆかり. 夫立ち会い分娩に関する夫婦の意識の違い. 日本看護学会論文集母性看護. 2002 ; 32 : 11-13.
- 4) 藤岡奈美, 加藤菜実, 濱田菜摘. 1歳時の母親が抱く育児困難感と夫の育児参加に対する満足との関係-1歳6ヶ月健診受診時の実態調査より-. 母性衛生. 2013;54(1): 173-181.
- 5) 船越泉美, 佐々木綾子. 夫の立ち会い出産の経験に関する文献検討. ヒューマンケア研究学会誌. 2018 ; 9 (2) : 89-94.

参考文献

- 1) 植松紗代, 河政美, 佐々木裕子, 他. 立会い分娩をした夫の満足度調査. 京都市立病院紀要. 2006 ; 26 (1) : 71-77.
- 2) 松田佳子. 立ち会い出産における夫の満足感と立ち会い体験および妻への親密性との関連. 日本看護研究学会雑誌. 2005;38(1): 93-100.
- 3) 中島通子, 牛之濱久代. 立ち会い分娩における夫の意識. 山口県立大学看護学部紀要. 2004 ; 8 : 41-47.
- 4) 松永由香: 夫立ち会い出産の現状と夫婦の意識調査分娩時に必要な助産師による支援. 日本農村医学会雑誌. 2014 ; 62 (5) : 779-784.
- 5) 森崎聡美, 小川久貴子. 夫立ち会い分娩に臨む夫婦への援助の方向性夫立ち会い分娩でより満足が得られるために. 日本ウーマンズヘルス学会誌. 2003 ; 2 : 104-111.
- 6) 山田裕子, 小原小夜子, 初田聡美. 出産に夫婦で取り組んだカップルの主観的体験バースプランからバースレビューまでを夫婦で取り組んで. 大津市民病院雑誌. 2010 ; 11 : 53-57.

〔 受付日 2019年 7月15日 〕
〔 受理日 2020年 1月 6日 〕

Research study of the awareness of and the degree of satisfaction with the birth plan for the couple

Miyuki Hyodo Kumi Hosobuti Mao Tsuji

Japanese Red Cross Ashikaga Hospital

Abstract

[Purpose]

The purpose of the research study was to clarify the awareness of and the degree of satisfaction with the birth plan for the couple.

[Methods]

Ten couples who filled out each birth plan form antenatally at A Hospital and underwent vaginal delivery were recruited in the study. Self-made questionnaires were used postnatally. Data were aggregated. Free descriptions with categorization were analyzed.

[Results]

Eight of 10 subjects were multiparas. Six parturients had their husbands present at their delivery. All of them did in accordance with their birth plans. Five husbands and seven wives were satisfied with childbirth according to their birth plans. In the free descriptions on the birth plans, five categories, including “childbirth with satisfaction”, “husband’s role attainment”, and “couple’s solidarity”, were extracted.

[Conclusion]

1. The support and educational involvement of medical professionals with the couple lead to satisfactory childbirth in accordance with their birth plan.
2. Nurses encourage the couple to think of childbirth positively after evaluating delivery when their birth plan cannot take priority under urgent situations.
3. It is necessary to consider the contents of a birth plan that can lead to child-rearing after childbirth with the participation of the couple and medical professionals.

In conclusion, to raise the degree of satisfaction with a birth plan for the couple, it is important to approach childbirth with a sense of unity to enhance the awareness of the wife and husband and the medical professionals.

Key words birth plan, presenting at delivery, the degree of satisfaction